

平成26年度 岡山県農林水産総合センター「畜産研究所」 機関評価評価票

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 0人	優れている 5人	妥当 3人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

■畜産生産現場に求められているものは、(1)安全安心な畜産物を、(2)環境に配慮しながら、(3)効率的に、(4)高い自給率のもとで低コストに生産することである。畜産研究所の、運営方針、重点分野にこれらは網羅されており、妥当と考えられる。

■厳しい予算、要員の中で、多くの県民ニーズに応えなければならないため、四つの重点方向を決めておられることは妥当と思いましたが、なかなか難しいとは思いますが、今後の県内の畜産振興は農商工連携で地域経済振興の中で位置づけていくことがますます重要となってくると考えられますので、三番目の柱である食の安全・安心を支える高品質で付加価値の高い畜産物を生み出すための生産から加工までの一体的技術の開発に力を入れていくべきと考えます。そのことによって畜産物の岡山ブランドの確立に貢献していただきたい。

■基本的な4つの柱に基づいた運営方針について問題はないが、重点分野がやや多岐にわたり、経済のグローバル化によって今後さらに予想される畜産物の輸入自由化に向けての対策として、県産畜産物のブランド化と自給飼料の品質向上等、実施課題にさらに優先度を付けて効率的に行っていく必要がある。

2 組織体制及び人員配置並びに 予算配分	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
-------------------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

■限られた人数で業務を遂行するために、テーマに応じた研究グループを組織している点が評価されます。また、活動資金の多くを貴研究所の事業収入でまかなっている点も敬服しました。しかし、今後は資金獲得分野を畜産だけでなく、畜産物加工メーカーなど周辺分野の業界との連携を図りながら、岡山ブランドの確立のための資金獲得、人材交流を促進させていくことが望まれます。

■県の厳しい財政状況を踏まえて組織体制が見直されて以降、平成23年度からの3年間でも研究職が3名減り、非常勤職員の比率が著しく増加しており、業務を効率的にこなすためにも人員配置と予算についてさらなる検討が必要である。

■少ない人員で新規事業に取り組みにくくなっている状態で県民ニーズに応える研究が進むのか？検討されるということなので期待したい。

■限定的である予算、人員の中で効率的研究成果が求められるが組織強化を図り質的向上に取り組んで欲しい。

3 施設・設備等	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 7人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
----------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

■農家が参考にできる事例を提供する必要があり、建物設備や機械設備は更新が認められるよう一層の働きかけをしていただきたい。

■施設更新には多大の資金が必要で、初期投資は県費によってもランニングコストは運営費からまかなわなければなりませんので、予算面で足をひっぱるものになりやすい。この問題を軽減するためには、施設の稼働率向上のために、放牧預託や優良もと牛の供給など拡充など一部経費負担を課した外部利用の拡大促進などを検討することも必要かもしれません。できれば、将来の更新費用の積み立てが可能になればよいですね。

■搾乳ロボット対応の牛舎や大型トラクターを整備したとはいえ、25年以上を経過した多くの機械設備などの老朽化に対し、長期計画に基づく整備対応が必要である。

4 研究成果	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 4人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

■研究成果については講習会や技術相談など普及に努めていることは評価される。一方、成果の有効性について行政、普及から評価をうけることはあるのか

■これまで、現場に役立つ数々の技術を開発してきたと思いましたが、しかし、一方で、研究の性格上、将来的展望にたった革新技術の開発が重要であることはいまでもありませんが、現場への普及を考えると、投資負担やコスト負担などの面から普及しにくい技術もあります。このような研究については、普及ターゲットを鮮明にし、普及を考えた従来技術からの移行難易性も考慮し、ベストでなくてもベター技術の開発姿勢も必要と考えます。

■大半の研究が「検討した」「期待できる」という表現で総括されているが、どのように成果が

生かされたのか、そこまで見届ける必要があるのではないかと。
 ■和牛改良や受精卵供給において、県内農家から着実な需要があると理解できる。おかもやま和牛四ツ☆子牛育成等、県外にアピールできるものは、より一層広報に力を入れることが望ましい。
 ■研究成果は日進月歩であり、短期間で成果を求めると無理がある。今後の取組に期待。
 ■「基本的な4つの柱」それぞれでさまざまな試験研究成果を挙げており、しかも実用化を視野に入れてその成果の普及にも力を入れている。グローバル化への対応に向けての担当研究部署として社会的なニーズが大きく、また、和牛改良をはじめとして事業実績においても成果を上げている。

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験、情報提供等の実施状況	非常に優れている 0人	優れている 4人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
-------------------------------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等
 ■普及指導センターとの連携が重要ですので、人材交流も含めてさらに連携を密にしてほしいと思います。
 少ない要員でよく頑張っておられると思いますが、ただ、近年は6次産業化や農商工連携等、非農業部門や一般消費者にむけた情報発信も重要になっておりますので、情報発信などについてはこれらの人々への気配りも一層重要になっています。
 ■「岡山県畜産便り」や「いきいき家畜衛生ネット」で発信できる情報を、一般の方が見聞きするようなメディアにも掲載あるいは配信することができれば畜産研究所の認知度はさらに高められると思われる。
 ■技術相談・指導の実施について、年度によって増減はあるものの増加している傾向にある。平成26年度に移管された飼料及び堆肥の検定などの行政検査において、研究所の役割がより強化されることを期待する。
 ■技術相談、現地指導の実施状況を見る限り、和牛、環境関係を除き寂しい結果である（特に乳牛）。受精卵の供給以外で、生産現場と距離ができつつあるのではないかと。研究課題の募集を、関係機関のみに頼らず、生産現場に向かい聞き取り採集してはどうか。それに取り組むことにより現場との距離も縮まるのではないだろうか。情報提供では、「岡山和牛四ツ☆子牛育成マニュアル」の作成による情報提供のような取組を今後も進めてもらいたい。
 ■相談件数が増えるには気軽に相談できる場所も必要。

6 人材育成	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
--------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等
 ■現場対応力に優れた若手職員の育成が最も重要と思われるので、それらを着実に進めていただきたい。
 ■セミナー等への参加も必要ではあるが、研究者を育てる一番の場所は、農家の現場であるという考えは前回から変わっていない。どんどん現場に派遣し、現場から頼られる研究者を養成していただきたい。また、コスト意識のある研究者を養成していただきたい。
 ■要員が不足気味の中、研究所の人材育成をよくやっておられると思います。しかし、今後、貴研究所と畜産振興にとってどのような人材を育てることが必要かを考えるとき、畜産の専門的知識もさることながら、世の中の動きや畜産物加工・消費分野のニーズへの感受性なども必要と思われるので、研究所内でさまざまな関連分野のリーダーを招聘し、話を聞く機会を増やしていくべきだと思います。

7 他機関との連携	非常に優れている 0人	優れている 2人	妥当 6人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
-----------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等
 ■中四国地域の独法および公設試験研究機関と一層連携を深めて、畜産研究所の存在をアピールしていただきたい。バイオマス関係の課題は工学系の機関でも多く取り組んでおり、共同研究のニーズは畜産研究所が考えているより数多くあると思われる。
 ■積極的に連携を図っておられると思います。今後は先述したように、岡山県における6次産業化や農商工連携事業の推進にむけて産学連携を視野にいたした連携先を検討することも重要かと思えます。
 ■農協、専門農協等との連携研究をより積極的に取り組み、現場のニーズを汲み取って運営方針に沿った成果に結びつけていただきたい。

8 県民・地域への貢献	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
-------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等
 ■一定以上の貢献をしていると思うが、県民に認知されているとはいいがたい。広報活動をより

積極的にいき、研究所の事業を理解してもらうことが望ましい。

■研究所の県民・地域への貢献は、イベントやふれあい体験を通じ、県民・消費者に畜産を理解してもらうことが一つあるが、もう一点、研究所は、畜産農家に研究成果で貢献することが責務と考える。かつて、県、関係機関の職員のみならず、広く畜産農家に対し、研究成果を発表する機会（例えば酪農研究会など）があったが、そのような取組も今後検討されてはどうか。

■一般県民に向けた情報発信の件数としては多いとは言えません。また、まきばの館の一般県民の来場者数が年々減少傾向にあることは気になるところです。老人会の来場者が増えるように自然を活かした施設整備も別次元で検討が必要ではないでしょうか。（例グランドゴルフ場等）

■地域貢献は、①生産から消費までの発想で岡山ブランドの創出、②異業種との連携による産官学連携、③遠い革新的技術よりも近い改善技術、④貴研究所の資源を有効に利用した県民サービスなどの発想で取り組んでいくことが一層重要になっていると考えます。

■農業普及指導センター等への成果説明会開催など尽力されている。

要望課題検討状況で26年度は「その他」が25件と多いので、その扱いも説明する必要はないか。

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 0人	優れている 3人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

■誠実に対応されていると判断できる。人員削減及び現業見直しに関しては取り組みを進めているとはいえ、現場対応力に優れた研究員や事業担当職員などの人材育成は研究所の存在意義に関わるため、検証を通じて改善すべきである。継続した取組・対応を期待する。

総合評価	非常に優れている 0人	優れている 6人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

助言、指摘事項等

■畜産業の性質から、大きな技術革新が短期間になされるとは考えにくい。優良受精卵や精液の供給、農家からの分析、検定、指導依頼に着実に対応しつつ、問題解決ならびに技術改善を進めていきたい。

■研究員が技術相談、現地指導、県民・地域への貢献といろいろされている。

今年のTMRの課題（育成牛）や、昨年検討したフリーストール（搾乳ロボット）の試験は、大規模な農家を想定された技術開発に思えるが、生産者からは小規模でもできる（あらたな投資をしなくてもできる）技術開発といった要望はないのか

■貴研究所をとりまく研究環境がよりきびしくなっている中でよく頑張っている。今の段階では下記の面で大胆な発想の転回も必要かとおもいます。

①消費者や業者等の実需者に向けた最終畜産物としての岡山ブランドを創出することが重要であり、生産場面での低コスト化、高付加価値化、流通場面での品質保持と低コスト化、消費場面での安心・安全の確保など、体系的な技術開発が従来以上に重要となっている。そのために、畜産研究所を核としながら川下産業も含む幅広い連携が必要であり、行政部局もこれまで以上に積極的にこれを支援すべきである。

②研究所の機械、施設などの適切な更新は、科学技術の進展が日進月歩とスピード化している今日、不可欠である。広く研究所外の利用解放も含めて稼働率向上と運転資金や更新費用積み立て資金の確保を図る体制を作ることが必要である。

③研究の重点化は避けて通れない課題であることは充分理解できるが、重点化に伴う予算措置、人員配置、そして、当初から普及拡大を前提とした組織作りなど、研究本体だけでなく、研究環境や普及体制づくりも必要である。できれば、このような環境づくりがどの程度できているか、また、期待される基幹技術については、期間ごとの数値目標など客観的な達成状況を判断できる指標も必要になってくると考える。

■限られた予算と人員削減の厳しい状況の中、岡山県における畜産研究において成果を挙げていると思う。評価資料にもあるように、今後の業務効率化と事業内容の「選択と集中」にかかっている。

■県内の畜産生産者、関係者に頼りにされる研究所であって欲しい。そのためには、情報収集力と情報発信力をより一層高める必要があるのではないか。

■畜産の生産を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、結果として県内畜産基盤そのものが弱体化している現状の中、農家の経営と基盤を存続させていくためには、コスト削減とともに生産物をいかに再生産可能な価格で有利に販売できるかに掛かっている。今後、岡山県内で生産された畜産物がより地域ブランドとして消費者から支持されるために取組むべき課題研究と普及推進に期待します。

■研究成果が安心安全で儲かる畜産につながるように期待します。

■畜産研究機関としての常日頃の取組み運営に対し、高く評価をさせて頂きながら、今後に対する期待も大きなものが有ります。

生産基盤が後退していく中で、将来に向け、若手畜産農家が希望を持ち、積極的に経営に取り組んでいける様、指導研究機関として是非、前進して貰いたいと感じています。